

# 第27回 (H26.春) 佐鳴湖水質調査の結果



平成26年6月 清流ルネッサンスII 佐鳴湖地域協議会

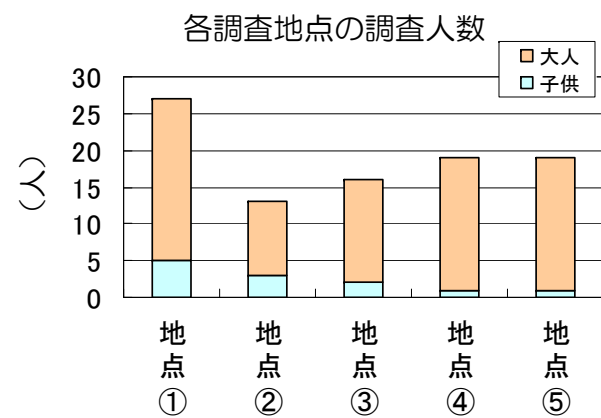
佐鳴湖では、住民の方に協力いただき、水のきれいさや生物の豊かさなどを調査しています。平成19年10月から始めたこの調査は、今回で通算27回目となりました。

調査は大きく分けて「アンケート調査」と「簡易水質調査」の2つがあります。「アンケート調査」は住民のみなさんに調査地点の水を見たり触れたりしてもらい、評価や感想を回答いただくものです。「簡易水質調査」は現地で簡単な器具を使い、水質をその場ですばやく判定するものです。それらの結果と、静岡県が詳しく測定した水質の調査結果をあわせて、「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」と「豊かな生態系の確保」などの視点から、佐鳴湖の環境を評価しています。

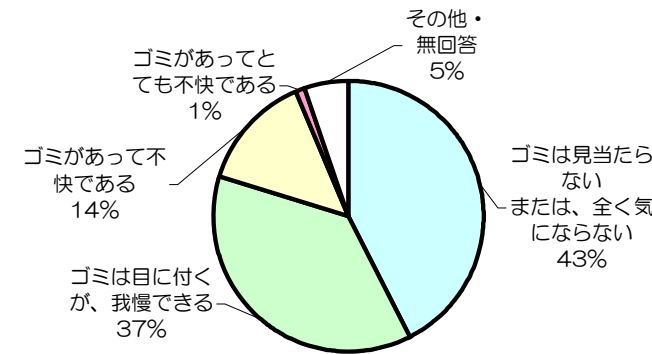
視点	調査の内容	
	アンケート調査	簡易水質調査
人と湖沼の豊かなふれあいの確保	ごみの量、水のおいしさ、湖底の様子、アオコ発生、水辺の音、水の透明さ、水とのふれあいやさ	透視度、透明度、700フィルの簡易確認
豊かな生態系の確保	水辺の植生、水生生物	溶存酸素(DO)、アモニア態窒素(NH <sub>4</sub> -N)
湖沼の基本的特徴の表現		pH、COD



調査日時：平成26年5月17日(土) 9時~12時  
 参加人数：48名 (大人42人、子供6人)  
 調査地点：5地点 ※1人2地点ずつ測定

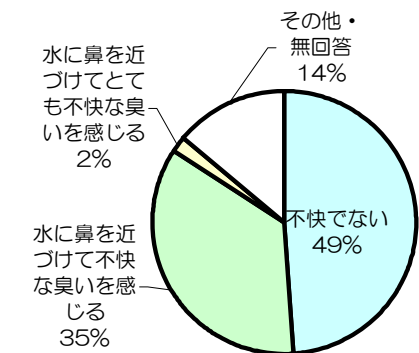


## アンケート調査の結果



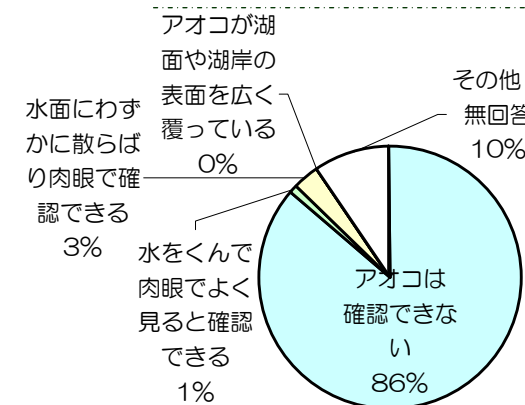
ゴミの量

43%の人が「ゴミは見当たらない、または全く気にならない」と答えました。



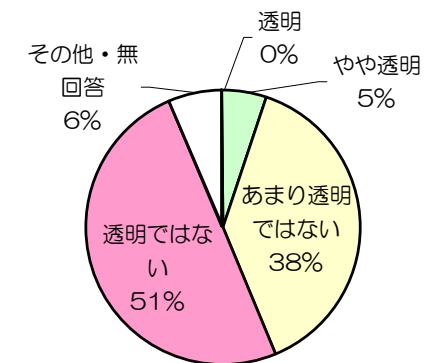
水のおいしさ

49%の人が水のおいしさは「不快でない」と答えました。



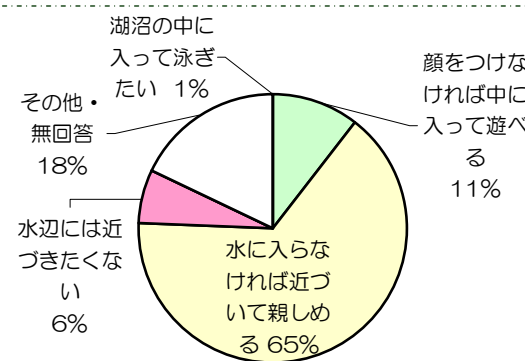
アオコの発生

「アオコは確認できない」という回答が大半を占めました。



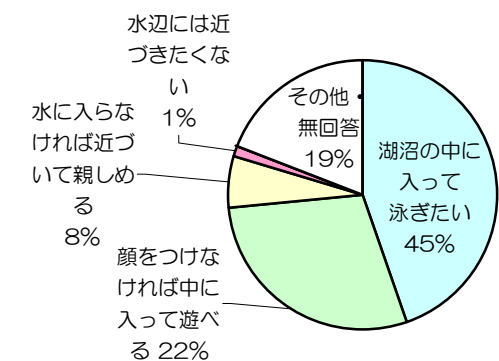
水の透明さ

「透明ではない」または「あまり透明ではない」という回答がほとんどでした。



佐鳴湖の水を見て(現状)

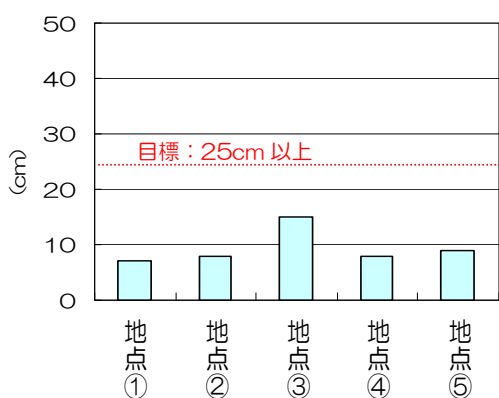
「水に入らなければ近づいて親しめる」という回答が65%で最も多くなりました。



将来の佐鳴湖(希望)

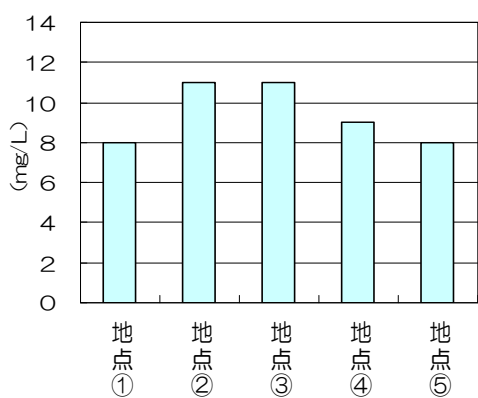
将来の希望として「水の中に入って泳ぎたい」という回答が45%ありました。

簡易水質調査の結果



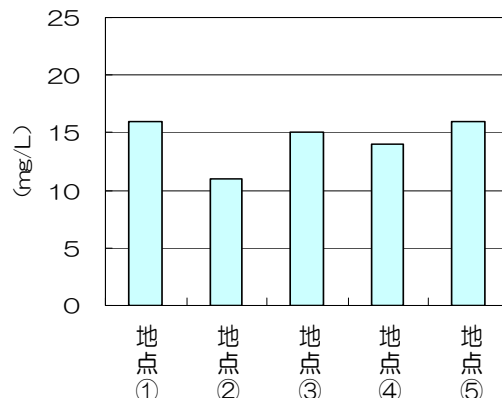
透視度

透視度（水の透明さの程度）は10cm前後で、目標となる25cmを下回っていました。



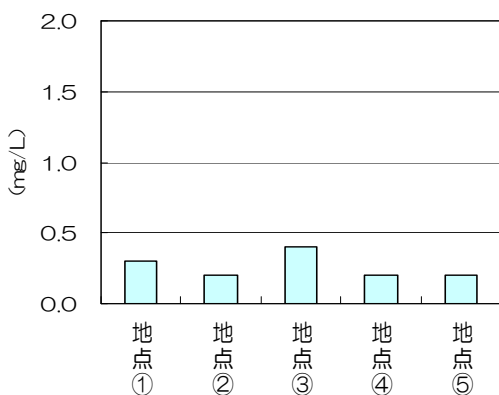
溶存酸素 (DO)

生物の生息に必要な、水に溶けている酸素の量 (DO) は、簡易測定で8~11mg/Lでした。



化学的酸素要求量 (COD)

有機物による水の汚れの程度を表す COD は、簡易測定で 11~16mg/L でした。



クロロフィルの簡易確認



地点① 地点② 地点③ 地点④ 地点⑤

アンモニア態窒素 (NH<sub>4</sub>-N)

生物の死がいなどが分解されてできるアンモニア態窒素は、簡易測定で0.2~0.4mg/Lでした。

注射筒とろ紙を使って、200mLの水をろ過しました。ろ紙の色は濃い緑~茶色となりました。ろ紙が目詰まりしてきて、ろ過するのに力が必要だったようです。



河川管理者（静岡県）による測定結果

測定項目	SS (mg/L)	濁度 (度)	クロロフィルa (µg/L)	糞便性大腸菌群数 (個/100mL)	溶存酸素 DO (mg/L)	化学的酸素要求量 COD (mg/L)	アンモニア態窒素 NH <sub>4</sub> -N (mg/L)
調査地点①	48	58.1	162	34	7.8	10.3	0.04
調査地点②	43	62.7	238	13	10.3	11.4	0.01
調査地点③	26	48.8	220	28	10.5	9.7	0.02
調査地点④	46	62.8	182	28	9.7	10.7	0.04
調査地点⑤	101	106	227	11	9.4	14.1	0.03

溶存酸素 (DO)、アンモニア態窒素 (NH<sub>4</sub>-N) はおもに底のほうにすむ生物がすみやすい環境であるかを調べるため、底層の水を採取して調べています。

生物調査の結果

水生生物の採取

ペットボトルで作ったしかけやタモ網を使用して、水辺にすむ生物の調査を行いました。調査を行ったのは、地点②、③、⑤のあわせて3地点です。

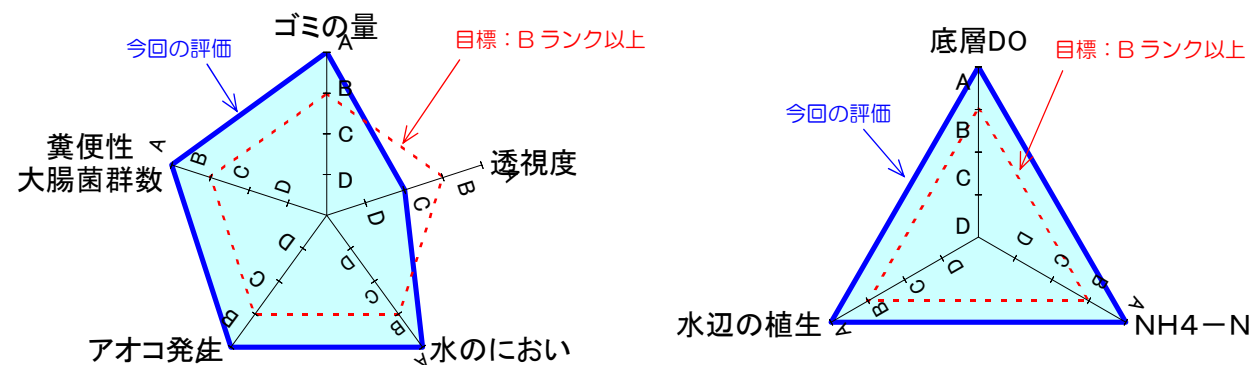
甲殻類はテナガエビ、スジエビ、モクズガニなどがとれました。魚類はマハゼ、アベハゼ、ボラ、ヌマチチブ、カマキリ (アユカケ) などの魚が見られました。

前回の調査 (冬) に比べると、水温も上がり、確認できた生物の種類や数が増えました。

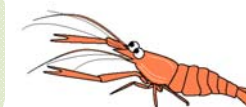


湖沼における新しい水質管理指標 (案) による評価

みなさんの調査の結果と河川管理者 (静岡県) による測定結果を、平成 22 年度に国土交通省より発表された評価方法で評価しました。下のグラフは、今回調査した 5 地点の評価を項目ごとに平均したものです。佐鳴湖の当面の目標は、すべての項目で B ランク以上になることです。今回の調査では、前回 A ランクだった透視度が C ランクとなり、目標を達成出来ませんでした。しかし、のべ 40 項目 (8 項目×5 地点) のうち、78%にあたる 31 項目で A ランクを獲得しました。



おわりに 今回、朝の受付時は風が強くて少し肌寒かったですが、調査を始めると暑いぐらいの陽気になりました。さて次回の調査は、8月を予定しています。暑さが厳しくなるとは思いますが、皆様、奮ってご参加ください!



この調査結果の詳細については、こちらまでお問い合わせください。  
お問い合わせ先：清流ルネッサンスⅡ佐鳴湖地域協議会  
(事務局) 静岡県浜松土木事務所 企画検査課 (053-458-7266)